

# 日韓医学生学術交流会開催

10/20/2011

2011年7月26日より5日間、慶應義塾大学医学部信濃町キャンパスにおいて第14回日韓医学学術交流会が開催され、

「災害医療」として。慶應・延世大学両医学

韓国の延世大学医学部から8名の医学部生が参加した。今回の学術フォーラムは3月11日に起こった東日本大震災を踏まえ、日本と韓国の志ある医学者が協同して解決の糸口

が見えない災害対策と向き合い、現状を正確に把握する事が重要であるという認識のもと、テーマを「災害医療」とした。生は、震災後に慶應義塾救急医療団として被災地支援活動にあたられた医師からの講義をいただいたり、「医学生は被災地支援に行くべきか」とい

うテーマに関してディベートをしたり、また学生間でトリアージワークショップをおこなったりした。幸運にも、今回の講義では急性期、亜急性期、慢性期と様々なフェーズ

の被災地支援活動体験談を様々な科の医師から聞く事ができ、とても貴重な体験となった。フォーラム開催期間中に韓国でも近年稀にみる洪水の被害に遭遇していた事から、

温泉に行き、浴衣の着付け体験を行ったりしてお互いの交流を深めた。多忙な中、医学部長ミ

今後とも本団体の活動を進めていきたいと考えている。  
(4年 吉永和貴)

ラム開催期間中に韓国でも近年稀にみる洪水の被害に遭遇していた事から、韓国の医学生達も自然災害に関して自分達は何が出来するのかについて医師に積極的に質問していた。また、被災地の悲惨な状況を収めたスライドにショックを隠しきれない様子であった。なお、学術面だけではなく、初日のウェルカムパーティーではアイスブレイキングゲームをしたり、また文化体験として浅草や大江戸

ーティングに お時間を割いて頂いた末松誠医学部長や本団体の活動を支援して下さっている小川郁教授(耳鼻咽喉科学・60回)をはじめとして、快く講義を引き受けて下さった先生方におけることに、

渡辺教授による漢方医学講義に熱心に耳を傾ける学部生



延世大学から8名の学部生が来日

